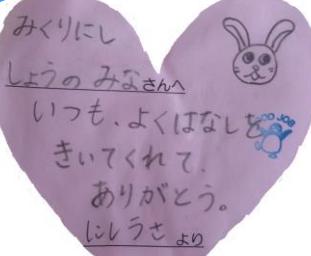


## さくらの学舎



-学びいっぱい・笑顔いっぱい・やる気いっぱい~

発行日：令和7年12月9日（火）

発行者：校長



☆美里西小学校ホームページ「学校日記」では、子供たちの頑張る姿を紹介していますので、ぜひご覧ください。美里西小ホームページQRコード→



「あいさつ」で「笑顔いっぱい」な家庭・学校・地域に…

～「地域でふれあうあいさつ運動」(12/1~5)ご協力ありがとうございました。

12月1日（月）から5日（金）までの5日間、東一貫校「第2回地域でふれあうあいさつ運動」（学校運営協議会主催）を実施しました。今回も、子供たちは地区ごとの参加、またPTA本部を中心とした保護者の皆様、地域の皆様（区長会、民生委員児童委員協議会、青少年健全育成推進協議会、更生保護女性会を中心に）に多数ご参加いただき、本当にありがとうございました。



「あいさつ」の語源は、禅の言葉で「一挨一拶」（いちあいいさつ）であると聞いたことがあります。「挨（あい）」は「心を開く」、「拶（さつ）」には「心に近付く」という意味があります。つまり、「あいさつ」は「心を開いて相手に近付く」という素敵な行為であり、ただのマナーではなく、人と人が心を通わせる大切なコミュニケーションということなのです。

また、先日（12/2火）の朝礼では、「ありがとう」の意味を子供たちに伝えました。「ありがとう」は「有り難い」つまり、「あるのが難しい、あたり前ではないこと」という意味があり、感謝の心のこもった大切な言葉であることを一緒に考えてみました。

学校ではこれからも、「あいさつ」の力を子供たちと一緒に考えるとともに、心のこもったその美しい行為を、自分から進んでできる子供になれるよう、声をかけていきます。そして、保護者や地域の皆様が、常日頃より「あいさつ」を通して子供たちとつながり、応援してくださっていることも、一緒に考えていきます。

2025  
to  
2027EAST(イースト)  
アクションプラン東連携型小中一貫校  
学校運営協議会

詳細版

## 子供の取組

## 学校の取組

## 家庭の取組

## 地域の取組

豊かな心	①相手の目を見て大きな声を出し、あいさつや感謝の気持ちを心から伝えます	①あいさつ、感謝、思いやりの大切さを育みます	①大人が率先してあいさつや感謝の気持ちを言います	①大人が率先してあいさつや感謝の気持ちを言います
	②誰にでも思いやりの心をもって接し、互いの良さを見つけ認め合います	②子供のよさを認め、ほめ、伸ばします	②子供のよさを認め、ほめ、伸ばします	②近隣で気になる子を見かけたら一声かけたり学校に連絡したりします
	③からかい・いじめを許さず、気付いたら注意する・助ける勇気をもちます	③他者と適切に関わる力を育み、いじめ問題の撲滅に努めます	③子供の変化やサインを見逃さず、悩みの早期発見に努めます	③お祭りや地域行事など、子供の居場所づくりに努め、地域での触れ合いを大切にします

EASTアクションプラン「豊かな心」より

## 大切な「命」を守る行動について考えました。

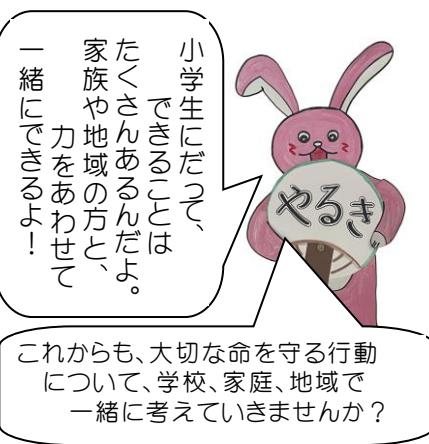
保護者の皆様には、11月21日（金）の授業参観、学級懇談会にご出席いただきまして、ありがとうございました。

今回の授業参観は、群馬大学大学院の先生による「親子で考える防災学習」を実施し、地震などの自然災害が起きたとき、命を守るために適切な行動がとれるようにするために大切なことについて、親子で考える貴重な機会となりました。なお、地域づくりセンター美九里の呼びかけにより、地域の方々にもご参加いただきました。

また、12月1日（月）の学校保健委員会では、「大切な命を守ろう！～だれかがたおれてしまったらどうする？」をテーマに、保健委員会の児童が、一生懸命調べたことを発表し、学校医の先生、藤岡消防署鬼石分署の方々にご指導いただきました。AEDや心肺蘇生等の救急に関する基本的なことを知ることができました。

防災も救急救命も、大切な命を守るために、大切な行動です。これまで、「大人がやってくれる」と思っていたり、このようなことを考えたこともなかったりした子供たち。でも今では「自分や他人の命を助ける行動がとれる人になりたい！」と思えるようになっています。

あらためて・・・小学生の子供たちにも、大切な命（人）を守るためにできことがあります。いざ、というときに適切な行動がとれるようにするには、日々の生活をどう過ごすか？が肝心です。日々の学校での学習や体験活動、家庭や地域においても、「自ら考え、行動する」ことをたっぷり経験させたいものです。そんな経験を通して育まれる「何事にも一生懸命取り組む姿勢」や「他人を思いやる心」こそが、防災や救急救命など、大切な命を守る行動につながっていくのだと考えます。



## 「いじめ問題解決」のために、学校・家庭・地域が一丸となつて考えています。

10月23日（木）「東人権サミット」で東一貫校4校の児童会、生徒会の代表16名が藤岡第一小に集まり、「どうしていじめは起こるのか、なぜいじめはなくならないのか？」をテーマに話し合いました。

そして11月27日（木）地域づくりセンター藤岡において、「いじめ問題解決に向けた教育懇談会」（主催：学校運営協議会、共催：各校PTA）を開催しました。「東人権サミット」で子供たちが話し合った内容をもとに、「いじめを生まない社会を創るためにメッセージ」を子供たちに発信しよう！と熟議しました。ここで話し合われた学校・家庭・地域の大人たちからの子供たちへの思いは、このあと、学校運営協議委員会でまとめて、メッセージの形で子供たちに伝える予定です。

多くの保護者、地域関係機関（区長会、民生委員児童委員協議会、青少年健全育成推進協議会、更生保護女性会）の方々にご参加いただきまして、ありがとうございました。

